

## 第1回北秋田市総合戦略検証会議 会議録

日時：平成29年6月7日 13時30分～15時40分

場所：旧中央公民館 大教室（3F）

### 【決定事項】

- ・第2回は平成29年7月3日の午後1時00分からとする。

### 【会議の概要】

#### 1. 新規委員紹介

人事異動等で変更となった委員4名を紹介

#### 2. 座長挨拶

#### 3. 事務局説明

「資料2 北秋田市人口ビジョンに基づく実績値について」を事務局から説明した。

#### 4. 協議事項

北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 効果検証シートについて

一各部長等より目標値に達成しなかった項目を中心に説明を行った後に質疑応答を行った。

### 【各部長等の説明概要】 ※（ ）内の数値は資料1の効果検証シートNO

総務部長：

#### 市役所における女性管理職員の割合（41）

主幹級からの登用に配慮したところ。一気に目標には届かないが少しずつ取り組みたい。

#### 秋田内陸線の乗車人数（61）

大きく目標割れをしている。インバウンド対策に取り組んで目標達成を目指したい。

#### 防災情報メール登録者について（65）

定期的にお問い合わせをしているが登録者が伸びてこない状況である。広報での周知や集落・団体への呼びかけを行っていく。

市民生活部長（代理：生活課長）

#### 地域活動に何か参加している市民の割合（46）

地域コミュニティ事業を使ってPRしていきたい。

#### 不法投棄件数について (100)

不法投棄監視員に月1回の報告をしてもらっている。

#### 地球温暖化の推進について (102)

広報等で市民にPRしたい。

#### 交通事故件数等について (120-122)

あらゆる交通関係機関と協力して、交通安全の推進を図りたい。

#### 健康福祉部長：

#### 子育てに関して気軽に相談できる人がいる保護者の割合について (37)

地域子育て支援事業などをいろいろな形で紹介していきたい。

#### 市民病院の常勤医師数について (68)

充足率は99.1%だが、本来100%を超えるのが当然であるので、県と協力して医師確保に努めたい。

#### がん検診受診率について (71)

これまでは職場検診できる人は集計対象から除かれていたが、今回から含まれるようになったことで実績値が低くなったもの。

今年度限定ではあるが、50歳代の検診料を助成する予定である。

#### 産業部長：

#### 認定農業者数について (4)

これまで認定農業者が法人となったり、高齢化などで減ってきている。減少傾向であることから見直しについて今後検討していきたい。

#### 森林経営計画策定率等について (8、9)

国の予算によって変わってくるので、関係機関に働きかけて目標達成を目指したい。

#### 建設部長：

#### 公営住宅のバリアフリー化の割合 (53)

入居者が若い世代などの場合はバリアフリー化を断られるケースも多い。

#### 公営住宅等の入居率について (54)

公営住宅には政策的空き家が含まれているが、現在は入りたくても入れない人はいない状況である。

一方、全体の半分しか入居していない住宅もあるので今後の課題である。

#### 住宅耐震化率について (56)

実績値はあくまでも推計値であり、各地域の状況は把握できていない。

耐震診断について、1件14万から15万円の費用がかかるが、自己負担を1万円にする事業を行っている。

自宅の除雪について特に困っていることがない市民の割合について (58)

その年の降雪量で変わってくるものと思われる。

市道の改良率・舗装率、緊急度の高い道路の舗装率について (104、105、106)

国の交付金を活用しているが、近年は要求の半分しか採択されない状況である。

状況や優先度を見極めて進めていきたい。

緊急度が高い橋梁数について (107)

緊急度が高いレベルⅣ（3年以内の補修が義務付けられている）の橋梁が4橋あるが、これらは全て補修済みである。

下水道の水洗化率、経費回収率、合併浄化処理層の設置について (108-110)

下水道については、高齢化が進み、後継者がいないと接続を断られる場合がある。

経費回収率については、都市部は利用率が高いが、それ以外は管路延長が長いので割高になる。

合併浄化槽は区域が限られてきているなど、地域間の事情があると分析している。

供給単価-給水原価（上水、簡水）について (112)

アセットマネジメントなどで検証していきたい。

教育次長：

北秋田市民ふれあいプラザ利用者数について (47)

実績値は貸館の利用者数のこと。自由来館は大幅に伸びている。（約20万人）

知識や教養、趣味等自発的に学習する市民の割合について (50)

分析すると、合川地区の減少が著しい。原因を検証していきたい。

県学習状況調査における正答率について (88)

いずれも県平均を超えている。高いレベルの秋田県の中でもさらに高い水準を維持している。今後は学年間・強化間のばらつきの強化を図りたい。

伊勢堂岱遺跡を見学したことがある市民の割合について (89)

見学者10,000人のうち、子どもが3割である。また、阿仁地区では5%しか見学したことがないなど極端な数値である。今後も周知を図っていきたい。

スポーツ施設利用者数について (94)

ニュースポーツの人口が増えている。スポーツクラブと連携しながら増やしていきたい。

消防長：

救急救命講習会を受講したことがある市民の割合について (113)

講習は時間ごとに5つのコースに分けている。基本的には3時間の講習をお願いしているが、中学・高校の場合は良いが、事業所などでは時間の関係で厳しい状況である。ぜひ新規の方を増やしていきたい。

## 火災報知器未設置の世帯数について（114）

火災報知機の取付から10年経過しており、電池や機器の不良の点検についても個別指導していく。

<5分休憩>

### 質疑応答

福原委員) 人口ビジョンに対する実績については分かりやすくいいと思う。毎年続けてほしい。移住関連の実績値(No29, 30, 31)の成績が良かったと思うが、何を行ったか要因を教えてください。

総務部長) No29については、県市で窓口を設けてそこを通じて移住した方の実績となっており、単身で帰ってきた方も含んでいる。その他、奨学金返還支援事業も影響があるのでは。今後も、首都圏の移住フェアや阿仁の移住体験住宅の利用をもっと進めていきたい。

大穂委員) 消防団員の市職員の兼務が少ない印象である。団の訓練への参加時に職務免除などが適用されるのか？

ハンターの減少が話題となっているが、若い方でありたがっている人が多い。例えば、有害駆除に市職員を位置づけて、何かあったら出動するような手立てはないのか？

内陸線の乗車実績が1割も減っている。外国人観光客が1万5千人も増えているのに減りすぎではないか。仙北市では利用者がデマンドタクシーに移行したと聞いているし、当市では昼の便が減ってしまい、乗りたくても乗れないとのこと。どこまで状況をつかんでいるのか？

No107 緊急度が高い橋梁数の関連で、萱草橋が通行止めとなっているが、内陸線の撮影スポットとなっており、車の通行止めは分かるが、人も入ってはいけないのか？

総務部長) 消防団と職員の兼務は消防庁でも推奨している。職務専念義務の関係で、合併前は阿仁・合川以外で職員の兼務はなかった。現在専念義務の絡みや報酬の問題についても整備されてきたので、今後は積極的に取り組んでいきたい。

狩猟についても、職員からの希望があれば理解していきたい。

内陸線の乗車数に関しては、圧倒的に高校生が減ったと認識している。

建設部長) 萱草橋を通行止めにした理由は、車で来る釣り客への対応によるものであり、委員のおっしゃるようなことなら配慮できるように検討していきたい。

福原委員) 公債比率など負債が200億とホームページにあるが、危機的意識を持っているかどうか？

財務部長) 市全体の負債は特別会計も含めると300億を超えている。しかし、その全てを市民が返すのではなく、その約7割が交付税として国から入ってくることになる。

なるべく有利な起債を活用することによって、市民の負担を減らしているところであり、実績値が一桁なのはそのような仕組みによるものである。

福森委員) No24 観光案内人数が減ってきていると思われるが、育成事業は行われているのか？

No89 伊勢堂岱遺跡を見学したことがある市民の割合について、阿仁地区が少ないとの分析であるが、マタギ資料館を見に来たことのある鷹巣地区の人がどれくらいいるものなのか？偏った見方にならないようにしてほしい。

産業部長) 案内人が高齢化してきているのは事実である。昨年樹氷の鑑賞会の中で案内人のNPOもできたので、少しでも拡大できるように進めていきたい。

教育次長) 設問に対する検討であって差別しているものではない。マタギ文化については民俗資料をどうやって保存していくか、特に個人所有のものをどうしていくか悩んでいるところ。

総合政策課長) 市民意識調査の設問に、市内の観光施設に対するものもある。報告書では、地区別の結果も掲載されているので後ほどご覧いただきたい。

奥田委員) 地道な取組は評価するが、目玉が無い気がする。人口が減り税収が減る中での起爆剤が無いと、どこと比べても目玉が無い。

内陸線に1億5千万円で車両を購入する試みはとても良いと思っていた。今話題の豪華列車のようなものを期待していたが、実際は目標に程遠い結果であり、車両の修理に使われるとのこと。しかし、もし本当にやる気があるのであれば、時間が掛かってもやるというような強い気持ちがあってほしかった。

北秋田はこれに賭けているというようなものがほしい。数値にこだわっていたら何も出来ずにしょぼしょぼしてしまうのではないか。

大穂委員) (関わった者として) 申し訳ないと思っている。活用については、修理というより化粧直しをする予定ですのでご理解を。

総務部長) 目玉については、探しているがまだ見つかっていない。現在は地道に移住者を増やそう、農業所得を増やそうなどと努力しているところ。集中してやれるものがあれば思っているのご意見をいただきたい。

座長) 具体的なアイデアがあればどうぞ。

小塚委員) 保育現場においても少子高齢化が進んでいる中で、目玉はやはり少子化対策である。現在園では、0歳児が40~50歳になった時に暮らせる生産性のあるまちづくりについて話し合っている。また、働くお母さんが子育てしやすいまちを目指している。園では、子の看護休暇などが取りやすい環境づくりが進んできており、職場内ではここ2年で10人の子どもが生まれている。職場で働きかけるとこのように変わることが出来る。これを様々な企業で団塊の世代の方々を活用して、働き手を応援できる仕組みづくりを醸成することによっていろんな職場が動き出し、安心して産み育てやすい北秋田市になればよい。子どもたちも地域で子育てをするとつながりができ、大学にいったとしても地元に戻ってくるようになる。

No68 防災情報メール登録者数について、もっとやり方次第で登録者数が増えると思うので

検討してほしい。

総務部長) 防災情報メールについては、他の市での活用例もある。当市では災害情報だけである。その他の情報についての活用例について参考にしていきたい。ある程度費用をかけて整備したものであるので、目標を達成しながらさらに上積みできるような取り組みを進めていきたい。

座長) 次回までに聞きたいことがもしあれば。

小塚委員) 厚生労働省では受動喫煙防止を進めている。子どもの中耳炎や喘息などが増えている。若年層の喫煙の影響が妊婦に影響して、生まれたときの命にまで影響している。人口減少社会の中でタバコによる影響がどんどん増えている。市の対策は手ぬるい感じがする。子どもの命を守る気持ちがあるのか。市では思いっきり進めてもらいたいのがいかか？次回までに方向性を見出してもらいたい。

福原委員) 市民歌ができて何年か経つが、イベントでは歌われるが一般の人はごみ収集時にしか聞くことは無い。時間ごとに流れる有線(防災無線、チャイム)で市民歌を流せないか？  
大穂委員) 関連して、市民歌はオルゴールなどの聴きやすいものにしてほしい。市へ電話した際の保留時にとともうるさいので。

奥田委員) 市民歌は確かにいろんなパターンがあつてよいが、市民歌は詩を頭に入れて歌うことがいいことである。せっかく素晴らしい詩であるので、知らず知らずに言葉とメロディを取り入れられるようにしてほしい。